

令和4年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和4年12月6日(火) 14:00～16:00
- 2 場 所 さぬき市役所 3階会議室
- 3 出席者 【委員】石田委員 尾崎委員 柿木委員 樫原委員 金子委員 川地委員
黒澤委員 小松委員 高田委員
【事務局】山下市民部長 山田課長 田村係長 山本主任主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
 (1) 第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査について
 (2) その他
4 閉会
- 6 配布資料 資料1 さぬき市 男女共同参画に関する市民アンケート調査－報告書－
資料2 さぬき市 男女共同参画に関する中学生アンケート調査－報告書－
資料3 さぬき市 男女共同参画に関する事業所アンケート調査－報告書－
資料4 さぬき市 男女共同参画に関する教職員アンケート調査－報告書－
資料5 さぬき市 男女共同参画に関する市職員アンケート調査－報告書－
資料6 第2次さぬき市男女共同参画プラン(改訂版) 男女共同参画につながる
取組状況調査(案) 外

7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
	＜ 開 会 ＞ (14:00)
事務局	<p>本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。只今から令和4年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 黒澤会長からご挨拶いただきます。</p> <p>＜会長あいさつ＞</p>
事務局	<p>それでは、会議の進行は、さぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき、黒澤会長をお願いします。</p>
会長	<p>まず、会議の公開についてです。本会議は、「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき、「原則公開」となっています。非公開の案件がない限り、公開とすることとします。まず、傍聴申請について、人権推進課長から報告してください。</p>

事務局	現在のところ、傍聴希望はありません。今のところ傍聴の希望はありませんが、会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。
会長	はじめに、本日の会議についてですが、おおむね2時間程度を予定しております。新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、なるべく時間どおり進めてまいりたいと思います。ご協力よろしく申し上げます。また本日も前回に引き続き、議事（1）において説明を聞くため、第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査業務に関する委託事業者「株式会社ぎょうせい四国支社」の担当者に出席を求めています。では、議事（1）「第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	先日、送付しました資料1～5をご覧ください。お手元の資料のとおり、意識調査の結果について委託事業者から取りまとめ及び報告書の提出がありました。本日は、まず調査結果について作成担当者からご説明申し上げます。その後、質疑応答、意見交換の時間とします。
ぎょうせい	<資料1～5説明>
会長	まず資料1について、質問や意見はありませんか。
委員	今回初めて、書面回答のほか、インターネット回答も可能とした。回答者は若い人が多いなど、何か傾向はあるか。
ぎょうせい	インターネットによる回答者は20～50代で、60代以上はほぼ書面回答でした。詳細なデータは後ほど伝えます。
委員	有効回収率は36.1パーセントだった。回収率によって、調査が妥当である、妥当でないということはあるのか。
ぎょうせい	アンケート調査は回収率ではなく、回収数がポイントとなります。回収率については、男女共同参画に関するものは30～40パーセント、まちづくりに関するものは45パーセント前後、65歳以上のみを対象とした介護保険に関するものは60～70パーセントと、テーマによって、どこもあまり変わりません。回収数については、500～1,000あると統計的な分析ができます。今回は721件なので、統計的には十分な数とみなしてよいと思います。回収率を上げる、というのではなく、どれだけ回収数を確保する必要があるかそのためにはいくつ配布しないといけないか、という考え方をしないといけないのが、郵送調査の考え方です。
委員	膨大な資料を分析するのは苦労があったと思う。大体が予想する結果だった。最後の自由意見は、本心、生の声だと思う。選択回答の設問でも実態がよく分かるが、特に市民アンケートは自由意見が多いので、分析し、市として取り上げないといけないものをみてほしい。
ぎょうせい	その通りだと思います。数字でみるものははっきり傾向が分かりますが、自由意見の集約結果は、来年度策定にあたってのヒントやキーワードが得られるという点で重要だと思います。報告書はできたばかりなので、これから事務局と読み込んでいきたいと思っています。
会長	次に、資料2について、質問や意見はありませんか。

委員	<p>3 ページ【参考／時系列推移】では、平成 29 年の前回調査より「男女共同参画社会」の認知度が下がっている。ここは取り上げないといけないと感じた。今、高3～大学生の子どもたちでは半数近くが認知しているのに、中学生は3割以下に減っていることに驚いたが、これはなぜだろう。また、中学生になる私の娘は、「今の若者はメディアで簡単に情報を得ることができる。」と言う。例えば4ページの設問の「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はないと思う」に対し「そう思う」と答える人の割合が高いのは、テレビなどのマスメディアで報じられているのを見て、そう感じる子が多いのかな、と。しかし、周囲の大人からは「子どもは？」と言われるだろうし、国も少子化対策と言っているので、この結果との違いを感じる、と話していた。それをうけて、本心でなく周りから得た情報に基づき答えた部分もあるのでは、と感じた。</p>
ぎょうせい	<p>6 ページ【参考／時系列推移】をみると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであると思う」「男は男らしく、女は女らしく」「家事や育児は女性の仕事であると思う」という考え方を「そう思わない」割合が、今回は増えています。また「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はないと思う」では「そう思う」の割合も増えています。意識は少しずつ高まってきていると捉えられますが、一方で「男女共同参画社会」の用語は知らない割合が増えています。確かに様々なメディアからジェンダー、LGBTQ、多文化共生などについて知識を得る機会があるのかもしれませんが、個人的には、「男女共同参画社会」の用語がその中に埋もれてしまっているような気がしています。</p>
委員	<p>この夏、東京から帰省した中学生、高校生の孫たちと図書館へ行ったとき、どのコーナーに行くかを見ていたら、まずジェンダーコーナーへ行った。「そういったテーマ、わかるの？」と聞くと、「皆、このようなテーマについて普段よくしゃべっているよ」とのことで、その類いの本ばかりを選んでみた。皆が話していることで内容のわからないものについて調べているのかな、と思った。マスメディアなどで言葉を聞いて興味を持っているのだと感じた。祖母として、こういうときにどういう風にしたらいいのか困っているところはある。</p>
委員	<p>「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はないと思う」の結果は個人的にはショックだった。「そもそも結婚する必要がない」かどうかを問うてデータを取っている自治体はあるのか。結婚自体を選択する必要がないと思う人も増えてきている話も聞くので、子ども以前に結婚の必要について尋ねる自治体もあるのか気になった。</p>
ぎょうせい	<p>今回のアンケートではそのような設問は設けていません。以前どこかで見たことがあります。最近は見えていないように思います。確認します。</p>
委員	<p>ニュースなどを見ていると、昔に比べ結婚をする必要がないと思う人も増えている。何のための結婚か疑問に思う傾向があると見聞きする。</p>
委員	<p>私は中学校で教員をしていた。中学2年生のアンケート結果は、学校、先生の男女共同参画の考え方や教え方、家庭生活、スマートフォン等からの情報などに影響されていると思う。男女平等の教育が本当にされていれば実態は変わってくるので、この結果だから中学生はこうだ、と決めつけるとするのは違う。関係あるのは学校や家庭、社会を取り巻くもので、子どもはもともと白紙の状態だ。結果をほかと同じようにみてはいけないと思う。</p>
会長	<p>次に、資料3について、質問や意見はありませんか。</p>

委員	<p>経営者の1人として、中長期的に女性の管理職の比率が増えていくのは嬉しいが、男女関係なく、そもそも管理職とは何かに関する教育が必要だ。管理職には、所属構成員のマネジメントをしながら、部門の業績をどれだけ上げられるかの力が求められる。男女関係なく、その仕事についての適正がどこまであるかを見定めないといけない。性別にとらわれず、適性力を持ち合わせた人がマネジメントにつくべきだ。女性を増やさないといけない、比率を上げないといけない、という方向性は間違っていないが、増やすというところに留まらず、本質的なものを理解した上で、チャレンジしたい人がチャレンジできる、ということが大切ではないか。適材適所を考えるのにはおそらく時間がかかる。女性管理職を増やすだけなら目標値を設定すればいいが、過去の慣習を正していきながら、ということになると10年、20年かかるかもしれない。企業の中でも地道な活動をしていかないと、なかなか実現は難しい。また、中学生には幅広く情報を与えて、その中で考えていけるようにする必要があるのではないか。文系、理系それぞれにこういう道がある、というのを教えて、生徒自身が考えられるようにしないと、進路選択はできない。こういうのが全部に通じるのだと、全てのアンケートを見て思った。施策を考える上では、そういう面での対応をしていかないといけないと感じた。</p>
委員	<p>男女共同参画については、私自身が勤める会社の労使でいろいろと検討しており、女性の管理職を増やすことについては、労働組合の中でもどうしたらよいか話をしている。女性の管理職を増やすためには、評価制度について考えないといけない。当社では、ハードワーカーが管理職になっている傾向が強く、そうなるワーク・ライフ・バランスや子育てに関する問題、時短勤務や、残業できないことなどで、男女の差ができていないのではないかという意見があった。労働組合で女性に向けてアンケートすると、管理職になりたい人はたくさんいるが、残業に関する懸念が必ず出てくる。社内での平均残業時間は月30時間。残業時間月30時間ありき、というのを評価制度の土台に置くと、残業ができない人が評価を得るのが難しい。ワーク・ライフ・バランス、子育て、地域の施策と企業の在り方、全てつながっているのだろうなと考える。また、今回のアンケートの自由記述を読んでいたが、良いことが書いてあった。ぜひ多くの人に見てもらいたいなと感じた。</p>
委員	<p>女性管理職を増やすことについて。管理職になりたいという人は、男女共にマネジメント業に憧れているのか、それとも管理職になることで所得が少なからず増えるのでやりたいのか。時代と共に、雇用はメンバーシップ型からジョブ型へと変容している。例えば、専門職で、結果を達成すると所得が2000万になる、できなければ500万円。そんな風な選択ができる時代になっても管理職の数の問題になるのだろうか。そういう時代になると、性別は関係ない。アンケートに「管理職はわずらわしい」というものがあつた。ジョブ型の時代になって、管理職を選ぶ人は少ないと思う。経営的な立場からするとぞっとするのだが、そこを含めて、いろいろと勉強しないといけない。</p>
会長	<p>次に、資料4、5について、質問や意見はありませんか。</p>
委員	<p>私も自由意見を讀んだ。「女性、男性ではなく、人を人としてみて」というような記述があつた。核心を突いていると思う。資料2についてだが、アンケートの中に「あなたはいじめにあつたことがあるか」という設問がなかつた。以前話したが、ある学校で、もし自分がいじめにあつたときにどうするかと尋ねると、24人中5人が「我慢する」と答えた。その他は「相談する」などと答えたので、さらに誰に相談するかを尋ねたところ、今回のアンケート結果と同じで、まず「友達」、次に「親」、「先生」であつた。</p>

委員	<p>全体的な感想になるが、教職員や市職員は意識が高いという説明があったが、実際そうでないといけない。男女共同参画社会の推進者にならないといけない立場だ。また、自由記述の部分は、今後分析する必要がある。全体的に意識は確実に高まっていると感じるが、実態は変わっていない。意識が高まった分、問題点がよく見えるようになってきた。社会全体で不十分だという意見が増えるのは、時代が逆行しているのではなく、これまで気づかなかったことに気づく人が増えてきたということで、プラスに考えてよいと思う。依然として残る格差などの実態を変えていかないといけない。市民から子育て支援に関する要望が出ている。子育てについては、女性ばかりに負担がいく現状であるのできちんと行政が支援する。子育てしやすいまちは、皆が住みやすく楽しく暮らせるまちであると思う。</p>
委員	<p>管理職の話は興味深かった。いろいろな職場や職業で、男女共同参画社会の観点から、女性の比率を増やすのは意義があることだが、管理職になること自体が目的ではないと思う。専門職で頑張りたい人もいていい。私は管理職だったが、自分の考え方や感じ方、信条を学校で生かしたいというロマン、目的があったからやった。よかったと思う。資料5をみると、女性の管理職を増やさないといけないと答える一方で、管理職になりたいという人は2パーセントしかいない。「管理職の仕事に魅力を感じない」と答えた人がとても多い。増やさないといけないといいながら、希望する人が少ないのは大きな問題だ。表層的な部分ではなく、根本の人間の生き方という部分で市はどう捉えているのか。さぬき市として、子どもにはこれ、市職員にはこれ、というインパクトのある施策がほしいと思う。</p>
委員	<p>高校生の娘がいるが、「男女共同参画」の言葉を知らないというので、男女共同参画そのものを知らないのかと思った。しかし詳しく話を聞くとそうではなかった。例えば、いろいろなアイドルグループは知っていても、そのグループが共通して所属する芸能事務所の名前は知らない、ということがあるように、男女共同参画の具体的な内容を知っていても、それが男女共同参画だと知らない。話を聞いて知った感じだった。</p> <p>また、資料2で、デートDVを知らない中学生の割合が多かったのは衝撃だった。今後の人生に大きくかわるので、教育現場で教えてほしいなと感じた。資料3については、自由意見が2件しかなかった。資料4、5については、管理職になりたいと答える人の割合が低かったが、教職員や市職員といった公務員の結果なので、外資系企業の社員などに聞くと割合が変わると思う。子どもが小さいとき、子どもが成長してから、など聞かれるタイミングでも答えが変わってくるかもしれない。個人的には、管理職になりたいかどうかの数字はうのみにしていない。女性は子育てや介護といった外的要因に振り回されるので、管理職になりたいかは時期にもよることを知ってくれとありがたい。</p>
会長	<p>貴重な意見に感謝します。今の意見については、アンケート結果と年齢とをクロス集計するとみえてくることもあるので、今後分析してもらえたらと思います。</p>
委員	<p>資料3で、「管理職を望んでいない」「長時間の労働を要求しにくい」という回答が多かった。直接の設問は無いのだが、回答者は男性で管理職が多いのではなだろうか。また、「アンコンシャス・バイアス」については、ほとんどが知らないという回答だ。上記の回答と「アンコンシャス・バイアス」についてクロスで集計すると、どういう風に出てくるのか見たいと思った。</p>
会長	<p>今日はロールモデルに関することをはじめ、いろいろな意見が出ました。男性の管理職が多く、女性の管理職が少ないと、皆が同じようなもの見方をして意思決</p>

事務局	<p>定する、ということも多いように思います。本会には様々な立場の人がいて、多様な意見が出されますが、職場でもそういう形で意見交換がなされると変わってくると思います。その他にも意見があれば事務局に伝えてください。これで意見交換を終了します。次に、議事（２）「その他」について、事務局から何かありますか。</p> <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料６】「第２次さぬき市男女共同参画プラン（改訂版）男女共同参画につながる取組状況調査」について ・男女共同参画社会作品募集について ・次回協議会について ・その他
会長	<p>事務局から説明がありました。何か質問などはありませんか。</p> <p><質疑なし></p>
会長	<p>それでは、次回の会議は、２月頃となる予定です。事務局より追って案内しますので、よろしくお願ひします。最後に山下市民部長からあいさつをお願いいたします。</p> <p><市民部長あいさつ></p>
会長	<p>本日も活発な議論をありがとうございました。以上で、令和４年度第３回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: center;">< 閉 会 > (1 6 : 0 0)</p>